



巻頭言

「いのち輝く未来社会のデザイン」
大阪・関西万博のテーマに想いを重ね、これまで育て上げた
保育・高齢者・障がい者を含む70を超える福祉事業の更なる拡大と発展を - 2

「制度のすき間に届く支援を」重層型支援体制の必要性を学ぶ 成光苑大阪エリア - 3

障がい児福祉サービス「ココリスPLUS(プラス)」来春4月に稼働開始へ - 3

福祉と未来が会おう場所、万博 東生野愛育園・岩戸ホームデイサービスセンター - 3

「保育の中で、子どもの声をどう聴く?」法的視点から学ぶ人権研修 保育研修 - 4

専門職同士のつながりがケアを変える サンヒルズ紫豊館・せつつ桜苑 - 5

就活生応援メッセージ - 4~5

川口孔乃絵さん(東生野愛育園)/土田郁己さん(せつつ桜苑)

カブラで学びながら街づくり 認定こども園きりん愛育園 - 6

ひまわりからミストがシュワッ! 認定こども園千里丘愛育園 - 6

「マシッソヨ!」韓国語も飛び交うにぎやかな調理レク デイサービス 夢咲 - 7

キッチンカーが届ける、涼と温の美味しさ 岩戸ホーム - 7

トピックス - 8

かがやき農園プロジェクト

今年の畑は大当たり! コロタン祭りだ~



吹田竜ヶ池ホームでは、7月下旬から8月にかけて、昨年収穫した夏野菜(トマト・きゅうり・なす・ピーマン・オクラ・メロンなど)の種から育てた野菜が次々と成長し、収穫期を迎えました。

昨年数個だったメロン「コロタン」(「ききょう」2024夏号掲載)は、今年は約30個の大収穫。一般的には小ぶりの品種ですが、中には飛び切りの大玉ができて「こんなに大きく育つのか!」と驚きの表情でした。

ノコギリ名人 現る! 案山子づくりに一役

ココリス(障がい福祉サービス:生活介護)では、7月8日から7月28日にかけて、「かがやき農園プロジェクト」の茨木市佐保地区の畑地用(「ききょう」2025夏号掲載)の案山子(かかし)を制作しました。



この取り組みは、害獣対策にもなるというだけでなく、ご利用者にもものづくりの楽しさや完成時の達成感を味わっていただきたいというスタッフの発案から、作業は角材の切断から始まり、ご利用者はノコギリを器用に扱って指示された印まで正確に作業を終えました(写真右上)。ご家族に何うと「支援学校で木材の取り扱いを経験していました」とのことで、スタッフも納得しました。



教えてあげるね! 5歳児が大活躍の夏祭り

くろみ愛育園では8月28日、幼児クラス(3・4・5歳児56名)による夏祭りを、絵本の縁側園舎と園庭を使って開催しました。

くじ引き、お菓子釣り、的当て、輪投げ、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、そして5歳児が手作りする飴のつかみ取りなど、全部で7つのコーナーが登場!

当日は5歳児が店番を担当し、3・4歳児に遊び方を教えたり、お店の準備やお手伝いも。暑い中でも子どもたちは元気いっぱい「楽しかった!」「ヨーヨー釣れたよ!」と笑顔があふれていました。



手作りゼリー、みんなで作って食べて笑顔が広がるアイスクリームレク

高槻けやきの郷(特養2階)では8月20日、「アイスクリームレク」を開催しました。

残暑が厳しく、外出を控える方も多いこの季節。そんな中、今回のレクリエーションでは、コーヒゼリーとカルピスゼリーを、ご入居者と一緒に手作りました。

「ちゃんと固まるかな?」と少し心配される様子もありましたが、どのユニットも無事に完成!フルーツやアイスクリームをトッピングして、皆さんで楽しく召し上がっていただきました。「冷たくって美味しい!」と満面の笑顔が広がっていました。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2025年10月
【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来
創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。



巻頭言



「いのち輝く未来社会のデザイン」
大阪・関西万博のテーマに想いを重ね、これまで育て上げた
保育・高齢者・障がい者を含む70を超える福祉事業の更なる拡大と発展を

理事長 高岡 國士

日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、皆様の多大なご協力とお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

夢洲の地に立ち

自身の歩みと変遷を振り返る

大阪・関西万博（EXPO2025）の地に立つと、大阪万博（EXPO'70）を訪れた日の記憶が懐かしく蘇り、これまでの自身の歩みや福祉業界の変遷を振り返る契機となりました。

秋分の日、大阪・関西万博に行ってきました。会場（大阪市此花区にある人工島・夢洲）は入場者で混み合っていました。当日は小雨混じりの天候だったためか猛暑続きが和らぎ、比較的過ごしやすい一日でした。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国や地域と7つの国際機関が参加した大阪・関西万博は、184日間にわたる多彩な展示と催しで一般来場者数は累計で2500万人を上回り、10月13日に盛況のうち閉幕しました。

改めて考えると、大阪・関西万博のテーマは過去の国際博覧会のテーマの発展形に位置づけられていると感じました。日本での国際博覧会開催はこれまで3回のうち2回が大阪で行われ、1970（昭和45）年に開催された

大阪万博「人類の進歩と調和」から始まり、環境・都市・食料などの課題を経て「いのち」をテーマに据える形で発展してきたようです。

母の想いを地域へ

創立精神とサービスの原点を継承

私事になりますが、1974（昭和49）年に成光苑の理事長に就任して以来、早いもので今年で51年目を迎えました。国際博覧会のテーマの発展になぞらえるならば、成光苑も歩みを重ね、保育事業をはじめ高齢者福祉・障がい福祉を含め70以上の事業所を運営するに至り、地域住民や行政、社会福祉関係者との相互協力を旨とし、拡大と発展を続けてまいりました。

とりわけ節目として、成光苑の高齢者福祉事業の先駆けである軽費老人ホームB型岩戸ホーム（福知山市）が、1975（昭和50）年7月の開設から今年で50周年を迎えました。開設の契機は初代理事長である私の母が、現・岩戸ホーム近隣にあった鉱山の廃鉱から湧く冷泉水が皮膚病に効能があるといわれていることに着目し、その温泉権を取得したことにあります。その効果が地域で評価され、住民から「一部を地域に還元してほしい」という要望を受けて、岩戸ホームを開設しました。

この経緯は成光苑の理念「和顔愛語」の「法人設立の想い」にも記載されていますので、ス

タッフの皆さんにはご承知のことと思います。保育部門についても、同（昭和50）年10月に第二愛育園（吹田市）を開設し、当初は3歳未満児90名でスタートし、その後段階的に受け入れを拡大してきました。2022（令和4）年4月にきりん夜間愛育園と合併し、定員265名の幼保連携型認定こども園きりん愛育園として運営しています。認定こども園への移行や合併を経ながらも開設時の想いや伝統を受け継ぎ、こちらも通算で50周年を迎えました。今後も幅広く園児を受け入れ、保護者とともに子どもたちの成長を見守る保育を目指してまいります。

「和顔愛語」の精神を受け継ぎ、頼りにされる事業の遂行に努めたい

「和顔愛語」の精神を受け継ぎ、頼りにされる事業の遂行に努めたい

当法人は社会福祉法人の使命に基づき、福祉サービスの供給確保の中心的役割を果たすとともに、既存制度の対象とならないサービス、すなわち地域の公益的な取り組みの提供を継続していくことが重要だと考えています。今後も福祉の主たる担い手として、確実・効果的かつ適正に事業を遂行し、地域福祉の拠点として10年後も地域の住民から最も頼りにされる社会資源となるよう、信頼され愛される園・施設の運営に努めてまいります。関係各位には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

孤立にさよなら 心の支えをつくる

せつつ桜苑



せつつ桜苑では6月30日、摂津市介護者家族の会（摂津市社会福祉協議会主幹）からの依頼により、孤立しがちな介護者を対象とした「介護技術講座」を開催しました。参加者は20名、講師は松田有里同施設課長をはじめとするスタッフ5名が担当しました。

講座では、ベッドから車いすへの移乗や体位交換、食事介助など、日常の介護に役立つ技術について実演を交えながら丁寧に解説（写真）。ミキサー食の試食では「しっかり味がする」、「体験して食べやすさがわかった」といった声が聞かれました。

また、福祉用具の紹介では「どこで買えるの？」、「そんな便利なものがあるとは知らなかった」といった反応があり、参加者の関心も高く、知識を深める機会となりました。

今後も、介護を担うご家族同士が悩みや経験を共有し、励まし合える場として、介護者の心の支えとなるような取り組みを続ける考えです。

介護者家族がつながる実践型講座

土の感触に夢中

摂津市老人福祉センターせつつ桜苑



摂津市老人福祉センターせつつ桜苑（特別養護老人ホームせつつ桜苑併設）では8月1日、「第2回多世代交流イベント ふれあいフェスタ2025」が開催され、68名が参加されました。

今回は「夏休みの思い出づくり・作品づくり」をテーマに、小学生を対象とした「陶芸」と「サンドブラスト（「ききょう」2025夏号掲載）」の創作体験、そして親子で楽しめるスポーツ「モルック」（*）の体験会を実施しました。事前に近隣小学校へチラシを配布したことで、参加希望が殺到！定員を超える応募がありました。

陶芸体験には30名の児童と保護者が参加し、コップづくりに挑戦（写真）。普段触れることのない土の感触に戸惑いながらも、飾り付けに工夫を凝らし、個性あふれる作品が約1時間で完成しました。

（*）モルック フィンランド発祥の木の棒を使うアウトドアスポーツ

ふれあいフェスタ2025に68名参加

キッチンカーが届ける、涼と温の美味しさ

岩戸ホーム

岩戸ホーム（福知山市）では7月21日、同市夜久野町の「ブルーベリーファームナカシマ」からキッチンカーが来訪しました（写真）。



ブルーベリー狩りやニジマスつかみなど、季節のイベントが人気の農園で、この夏は「ブルーベリーアイスが絶品」とSNSでも評判です。当日は、ブルーベリーアイスやジュース、肉串の鉄板焼きなどが販売され、猛暑の中でも多くの笑顔が見られました。オーナーは「暑い日に熱いものを食べると、体調が整うよ」と、おでん鍋を前にっこり。スタッフが各フロアへ注文品を届ける形で対応し、アイスやジュースの美味しさに感動する声が続出しました。

地元農園との交流イベント

昭和のメロディーが響く夏祭り 世代を超えた交流が広がる

サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館では7月27日、夏祭りを開催し、ご利用者とご家族（16組・43名）が交流を楽しまれました。



地元住民「上豊バンド」（写真）による昭和の懐かしい楽曲（恋の季節、いい日旅立ち他）に、「懐かしい曲や。若い頃を思い出すわあ」といった声が聞かれ、音楽を通じて思い出を語り合う場面も見られました。また、福知山淑徳高等学校の生徒によるかき氷の出店では、「高校生が頑張ってくれて嬉しい」との感想が寄せられ、世代を超えたふれあいが生まれました。

韓国語も飛び交うにぎやかな調理レク

SSTを楽しく実践

デイサービス 夢咲

デイサービス 夢咲（障がい福祉サービス：生活介護）では8月2日、20名のご利用者がスタッフと一緒に大好焼き作りを楽しみました（写真）。

同施設では「SST」（*）を取り入れており、堅苦しい訓練ではなく、日常の活動を通して自然にコミュニケーション力や協調性を育むことを大切にしています。

今回の調理活動では、事前にレシピや工程を調べ、使用する粉や食材についてグループで話し合いながら準備を進めました。完成した大好焼きを囲み、「やっぱり自分で作った出来立てはおいしいな」と笑顔で話される姿が印象的でした。さらに、韓流ブームに合わせて「ハットク（韓国風ホットドッグ）」作りにも挑戦！こちらは即興の韓国語講座が始まり「マシッソヨ！（맛있어요:おいしいです!）」と口ずさみながら、大いに盛り上がりました。

（*）SST ソーシャルスキル・トレーニングの略。「社会生活技能訓練」や「生活技能訓練」と呼ばれ、社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練のこと

くるみ小規模保育園の夏祭りデビュー

手作りの楽しさがいっぱい！



くるみ小規模保育園では8月26日、初めての夏祭りを開催しました。園児12名に加え、姉妹園「くるみ愛育園」の地域子育て支援事業「くるみっこ」に登録している親子5組も参加しました。

これまでは姉妹園の夏祭りに招かれて参加することが多かったため、今回は保育スタッフの提案で自園主催にチャレンジしました。たこ焼き(写真)、かき氷、焼きとうもろこし、金魚すくい、ヨーヨー釣り、わなげなど多彩な模擬店(全て手作り玩具でごっこ遊び)とコーナーが並び、大いににぎわいました。子どもたちが満足そうに過ごす様子を見てスタッフからも「やってよかった」との声が上がり、保護者アンケートでは「園児と関わる機会があった」「小さい子が安心して楽しめた」と好評でした。

色水・シャボン玉・水風船！パパと過ごす水遊びデー

認定こども園一津屋愛育園



認定こども園一津屋愛育園では8月30日、地域子育て支援事業として「パパと一緒に水遊び・プール遊びをしよう会」を屋上プールで開催しました。今回は2・3歳児の親子を対象に募集を行い、6組の親子が参加されました。

屋上には色水、シャボン玉、水風船などを用意し、大きなシャボン玉作りで競争したり、ジュース屋さんごっこを楽しんだり、大きなプールと一緒にシャワーのトンネルをくぐったりと、普段はできない遊びをたっぷり体験しました。子どもたちは笑顔があふれ、パパたちからは「家ではできない遊びができて良かった」、「一緒に遊び尽くした！」などの温かい感想が寄せられました。

ひまわりからミストがシュワッ！

暑さ対策を強化した園庭活動

認定こども園千里丘愛育園



認定こども園千里丘愛育園では6月30日、今夏の猛烈な暑さ対策として、充電式屋外用の「ミストファンカートひまわり」を導入しました。このミストファンは、ひまわりの花をイメージしたデザインで、中心のノズルから霧状の水を噴射する仕組み。園庭での体育活動やサッカーなどの運動時には、活動場所へ移動して設置できるほか、登園時には正門付近に置かれ、子どもたちや保護者を涼しく迎えています。ミストがふわりと広がると、園児たちは「わあ、気持ちいい！」と歓声を上げながら集まり、涼しさを楽しみました。

園内に広がる創造の街カプラで遊びながら学ぶ

認定こども園きりん愛育園

認定こども園きりん愛育園では8月8日、エール株式会社のスタッフを招いてカプラ(*)のワークショップを実施し、4・5歳児クラスの園児95名が参加しました。昨年度、同社運営の屋内遊戯施設「がんばりまめの杜」(滋賀県大津市)へ遠足に行ったことがきっかけでしたが、今年度は日程が合わなかったため園内での開催となりました。

ワークショップでは、高く積み上げる競争や、友だちと協力して街づくりをする活動を行いました。園児たちは「ここは線路にしよう」、「こっちに道路はどう?」と相談しながら制作を進め、徐々に大きな街が形作られていきました(写真)。エール社スタッフが作った巨大なナイアガラの滝やカエルの作品から発想を広げる子どもも多く、園内ではしばらくカプラブームが続きそうです。



(*)カプラ 同一サイズの薄い木製板を積み重ねて造形する玩具で、保育園での導入は発達面・学習面・集団関係のいずれにも良い効果が期待できる

ママといっしょにぶるぶる探検隊！

地域子育て支援で寒天遊び

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園では9月3日、地域子育て支援「きりんひろば」にて、未就学の親子2組を対象に寒天遊びを行いました。

初めて触れる冷たくぶるぶるとした感触に、子どもたちは慎重な表情を見せつつも興味深そうに手を伸ばしていました(写真)。保護者の方々も子ども以上に楽しそうに触れ、久しぶりに童心に帰ったような和やかな時間となり「また参加したい!」と笑顔が広がりました。



制度のすき間に届く支援を 重層型支援体制の必要性を学ぶ

第1回大阪居宅介護支援事業所合同研修会

成光苑大阪エリアでは7月18日、吹田竜ヶ池ホームで「第1回大阪居宅介護支援事業所合同研修会」を開催し、高齢・障がい・保育の全事業部門が初めて一堂に会しました。参加者は計16名で、テーマは「地域の居場所づくり」。

共有で相談窓口機能の強化と対応力向上を目指しました。グループワークではKJ法(※2)を用いて「高齢者の外出環境整備」、「障がいの地域つながりづくり」、「子育て世代が集える場」、「引きこもり予防の地域交流」など多様な提案が出されました(写真)。参加者からは「視野が広がった」、「他職種の考え



(※1)重層型支援体制 地域住民が抱える複雑で多様な課題に対して、分野を超えた包括的な支援を行うための仕組み
(※2)KJ法 参加者が頭の中にあるアイデアや意見を出し合っ、それを整理して、グループ化してまとめる手法

に刺激を受けた」との声が寄せられ、今後も全事業部門で連携して、地域に根ざした取り組みをさらに深める方針です。

お地蔵さん、ふたりになったよ！ 地域と子どもたちの未来を見守る

認定こども園千里丘愛育園では7月13日、これまで地域の平安と子どもたちの健やかな成長を見守ってくださったお地蔵様に加え、新たな地蔵尊(写真右)をお迎えし、奉納の儀を厳かに執り行いました。



認定こども園千里丘愛育園創立75周年記念

同園は今年度、創立75周年という節目の年を迎え、長きにわたり地域の皆様を支えられながら、子どもたちの笑顔とともに歩んできました。新たなお地蔵様が並び立ち、二尊となったことで、より一層のご加護を感じることができるようになりました。

8月25日に開催された地蔵盆では、高岡国土理事長と子どもたちが親しみを込めて二尊のお地蔵様に合掌し、「お地蔵さん、仲良しやな」と囁く子どもたちの声に包まれ、心温まるひとときとなりました。



新規事業

『ココリスPLUS(プラス)』令和8年4月に稼働開始へ 成光苑3施設目の障がい児福祉サービス

社会福祉法人・成光苑は、摂津市一津屋で平成28年4月に開設した障がい福祉施設「ココリス」から障がい児福祉サービスを独立させ、令和8年4月に新施設「ココリスPLUS(プラス)」として運営を新たに開始します。

年々高まる障がい児支援のニーズにより利用定員を超えるお問い合わせが続き、十分な対応が困難になっていました。そこで地域の皆さまの声にお応えするため、定員増員が可能な専用建物を新たに整備することを決定しました。今後も一層安心してご利用いただけるサービス提供に努めてまいります。

詳しい内容は、次号(「ききょう」2026新年号)でお知らせします。

福祉と未来が出会う場所、万博

福知山の想い、夢洲(ゆめしま)に届く



岩戸ホームデイサービスセンター

岩戸ホームデイサービスセンター(福知山市)では6月23日から28日の6日間、ご利用者の皆さまとともに2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の「バーチャル万博～空飛ぶ夢洲～」(※1)を体験しました。

体験者は、アバター(※2)として万博の世界に入り込み、リクエストに応じて再現されたパビリオンやイベント施設を巡りました。仮想空間内では、大屋根リングを走ってみたり、公式キャラクター「ミyakミyak」との対面も。中でも、福知山市三和町の旧細見小学校中出分校を使用したシグネチャーパビリオン「Dialogue Theater-いのちのあかし」は、連日の訪問リクエストがあり好評でした。「こんな便利な時代になったんなやなあ」、「実際は行かれへんけど、連れて行ってくれてありがとう」など、温かい言葉が寄せられ、心に残る時間となりました。

(※1)「バーチャル万博～空飛ぶ夢洲～」 大阪・関西万博の公式オンライン体験イベント。夢洲は大阪市此花区にある人工島
(※2)アバター 仮想空間内で自分の分身として操作するキャラクターのこと

世界を描いた顔出しパネル完成



東生野愛育園

東生野愛育園では、6月下旬から7月中旬にかけて、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)にちなんだ取り組みとして、4・5歳児クラスが協力して「ミyakミyak(※1)顔出しパネル」を制作しました(写真)。きっかけは、子どもたちの間で「万博行った?」、「ミyakミyak知ってる?」といった会話が自然に交わされるようになったこと。園では地域性を生かした「多文化共生保育」(※2)にも力を入れており、パネルには世界の国旗も取り入れました。子どもたちは、思い思いのデザインを描き、画用紙をちぎったり切ったりしながら工夫を凝らして制作。完成したカラフルなパネルに「ミyakミyak〜!」と歓声が上がり、園内に笑顔が広がりました。

(※1)ミyakミyak 2025年大阪・関西万博の公式キャラクター。水と細胞が融合して生まれた生命体
(※2)多文化共生保育 外国につながる子どもたちの文化を尊重しながら、みんなが安心して過ごせるようにする保育の考え方

専門職同士のつながりがケアを変える サンヒルズ紫豊館とせつつ桜苑が交流を強化

サンヒルズ紫豊館(福知山市)では8月21日、成光苑大阪エリア「せつつ桜苑」から弁護士・看護師・調理員・生活相談員の4名(写真奥の4名)が来訪し、施設間研修会が開催されました。

両施設は定員約50名の従来型特別養護老人ホーム(*1)であり、食事を自施設で調理するなど、運営面において多くの共通点を持っています。研修では、専門職ごとの情報交換も活発に行われました。

紫豊館では「ノーリフティングケア(*2)」の推進に取り組んでいます。スタッフへの浸透が課題となっています。一方、桜苑は2023年11月に「大阪府介護生産性向上モデル事業所」(「ききょう」2024秋号掲載)に選定され、床走行式リフトやスタンディングリフト、インカムなどの介護ロボットやICT機器を段階的に導入。個別ケアの充実と多職種連携の強化を進めています。桜苑スタッフからは「新しいことへの抵抗感は当然ありますが、継続的なトレーニングと体験の積み重ねが重要です」との助言もありました。



今回の研修を通じて、両施設は意識改革に取り組み、ICT活用やケアの質向上に向けた連携が期待されます。

- (*1) 従来型特別養護老人ホーム 多床室を中心とした施設であり、効率的なケア提供を重視
- (*2) ノーリフティングケア 利用者を抱え上げない介護方法で、スタッフの腰痛予防と安全なケアを両立

障がい福祉への理解促進を目指して 舞夢在宅スタッフが夢咲で勉強会

ライフ・ステージ 夢咲(地域共生型総合福祉施設:介護保険サービス・障がい福祉サービス)では7月31日、「障がいサービス対応能力・知識向上のための勉強会」が開催され、同じ舞鶴市内のライフ・ステージ 舞夢の在宅部門スタッフ13名が参加しました。

講師には夢咲施設長の山本幸一郎氏を迎え、障がい者をはじめ、生活困窮者、難病患者、ヤングケアラー、アルコール依存症の方など、地域で支援を必要とする方々への理解を深めることを目的に、今回は「障がい」に焦点を当てた学びが行われました。

講義では、障がいサービスの制度や特性、高齢者サービスとの連携、そしてマネジメント職に求められる視点など、現場に即した内容が丁寧に語られました。後半の質疑応答では、スタッフが日々直面するケースについて意見を交わし「精神障がいの方との距離感についての話が心に残った」、「病気の背景を知ることの大切さに気づいた」などの声が寄せられました。

対話で変える職場風土 コーチングによる組織力向上

キャリアアップ研修に中堅15名参加

高齢・障がい部門では8月25日、高槻けやきの郷にて中堅スタッフ15名を対象に『キャリアアップステージ研修I』を開催いたしました。

講師には有有限会社レイズ取締役の増田知乃氏を迎え「社会福祉法人を率いて～コーチング(*)の実践・日本の今(社会)と私たち～」をテーマに講義を賜り、組織内での人材育成の重要性を理論と実践の両面から深く学ぶ貴重な機会。

研修では参加者同士が実際にコーチングを体験しながら、フィードバックの具体的な方法や部下のモチベーションを高めるコミュニケーションスキルを習得。グループワークでは上司として部下とどう向き合うべきかを考察し、対話による信頼構築の大切さを改めて実感しました(写真)。

参加者からは「単なる知識の習得にとどまらず、自分自身の変化や成長を実感できた」といった前向きな声がかれ、スタッフ一人ひとりのキャリア形成と組織力向上を支える実践的かつ有意義な研修となりました。

(*)コーチング 相手の話を引き出し問いかけで気づきを促し、目標達成や行動変容を支援する対話法



就活生応援メッセージ



土田 郁己
せつつ桜苑
2025年度入社

**根気強さが介護の力になる
限界を知り越えていく毎日**
—自分のどんな所が今の仕事に生きていますか?—
私が介護の仕事で一番生きていますと感じるのは、自分の根気強さです。介護技術ももちろん大切ですが、それを支えるのはやはり「続ける力」だと思っています。自分の限界を見極めながら、困難な場面でもあきらめずに一歩ずつ前に進むことで、ご利用者の安心や笑顔につながっていると実感しています。これからも粘り強く頑張ります。

**待遇よりも信頼
就職先選びは自分の心が動く場所を**
—学生の皆さんにメッセージを—
就活先を選ぶ基準は人それぞれ。どんなに待遇が良くても、人間関係がストレスになってしまつと、長く働き続けるのは難しくなります。介護の現場では、ご利用者に寄り添うケアを心から提供するために、安心して相談し合えるチームワークが欠かせません。就職先を決めるときには「ここなら一緒に頑張れる」と思える人たちがいるかどうかを大切に考えてほしい。



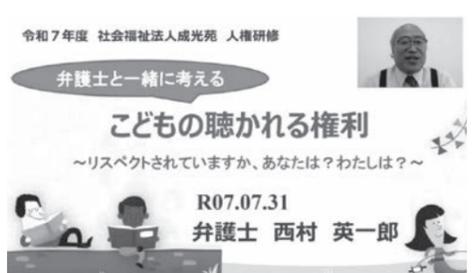
川口 孔乃絵
東生野愛育園
2025年度入社

**絵本の世界で子どもと心を通わせる喜び
悩みの中で見つけた表現の楽しさ**
—自分のどんな所が今の仕事に生きていますか?—
絵本を読むことや絵を描くことが好きで、それが保育に生かされています。絵本は声の強弱や問いかけを工夫し、子どもたちと一緒に楽しめるようにしています。保育の中で悩むこともありすが、「子どもと一緒に表現を楽しむ」ことの大切さに気づきました。絵本や制作を通して楽しい時間を共有することで、子どもとの関わりがより豊かになると実感しています。

**できない自分も成長の二歩
不安があっても自分らしく進めばいい**
—学生の皆さんにメッセージを—
学生時代とは違い、社会人になるとやるべきことや責任が増えます。私自身、今も悩んだりうまくいかないことが多くありますが、そのたびに先輩方に支えられながら日々学んでいます。最初はできないのが当たり前。大切なのは、一つずつ挑戦してみることだと感じています。学生の時にしかできない経験もたくさんあります。不安もあるかもしれませんが、今の時間を大切に、自分らしく前に進んでください。

保育の中で、子どもの声をどう聴く?

保育部門では7月31日、「弁護士と一緒に考える子どもの聴かれる権利(意見表明権)～リスペクトされていますか、あなたは?わたしは?～」をテーマに、人権研修をオンラインで開催しました(写真)。講師には、きづな法律事務所の弁護士・西村英一郎氏を迎え、保育スタッフ約100名が参加しました。



研修の目的は子どもの声を適切に聴き尊重する力をスタッフに付けること。西村氏は年齢・成熟度に応じた対応、安全配慮、誘導しない聴き方、記録の正確性、関係機関との連携、職員研修・運用改善の重要性を示し、命令口調は尊厳や意見表明権を損なうため敬意ある言葉遣いを徹底すべきだと強調されました。

「保育者はまず聴くことを大切にすべきです。聴かれることで子どもは意見を言いやすくなります。年齢や成熟度に合わせた言葉遣いと説明、そして感情を言葉で返すことが安心感につながります」と語られました。

参加者からは「保育職場のルールやマニュアルに落とし込むアイデアが湧いた」といった前向きな反応が見られました。

(*)意見表明権 子どもが自分の考えや気持ちを表現し、それを大人が尊重する権利。国連子どもの権利条約第12条に基づく

「その子らしさ」を支えるために



認定こども園きりん愛育園・ココリス

認定こども園きりん愛育園とココリス(障がい児福祉サービス)は7月7日、「第1回障がい児保育ケースカンファレンス」をオンラインで開催しました。保育士、公認心理士、社会福祉士など計8名が参加し、各部門の視点から意見交換を行いました。

今回は、実際にココリスを利用している園児の支援について、保育と障がい支援という異なる部門が同一園児の支援者として連携し、サービスの在り方や役割を相互に理解することを目的としました。

質疑では、10月の運動会に向けた取り組みなどについて保育スタッフから公認心理士へ質問がありました。公認心理士からは「運動会への参加自体が成長の一部であり、リレーでは第一走者(直線短距離)を担当することで安心感と自信につながる」との助言がありました。また、ココリスのような個別の環境では主体性を発揮しやすい可能性があることから、園で行っている小集団保育(*)の参考になった点も共有されました。このカンファレンスの最大の成果は、対象児への支援方法を関係者間で共有できたこと。今後も各園での小集団保育の内容をさらに充実させ、園児一人ひとりの特性やニーズに合わせた、より質の高い個別支援につなげていく方針です。

(*)小集団保育 特定の課題を持つ子どもたちが小規模な集団で行う療育のこと